の医療センター計画を全面的に支援し、推進しようとしている。本来、郡市をまとめるべき県が、地域医療の問題で山武郡市の分断と対立を助長していると言える。県立東金病院を廃止したいばかりに、山武郡市に医療センター計画を押しつけ、結果として、地域に分断と対立を生じさせた県のやり方は問題ではないか。市長の見解は。

A 市長　東金市、九十九里が責任を持って新しい病院を造るということで、山武市としては成東病院を山武市が必要な病院としてしっかりと守っていく。

ちなみに、県としては成東病院は、新しいセンターができても必要な病院だとはっきりいっている。

Q 県は成東病院を医療センターの支援病院的な位置づけにしようとしているのではないか。経営改善計画の具体的内容は。

A 市長　成東病院が350床をフル活動する中核病院として、すぐには描けない。200床を基本とした改善計画での医療提供になる。積極的に地域医療に役立てる病院にしたい。

A 副市長　計画内容は、県との最終調整中であり、病院内でも議論が残っており申し上げられないが、増収策や経費軽減について踏み込んだ検討を行っている。

Q 独法化は病院経営の手段にすぎない。独法化で具体的に何をするのか。

A 市長　できるだけ早い組合解散を求められている。次年度の負担金の約束もない。人員削減、給与体系の変更などコスト以上に収入の確保ができる経営体を摸索したい。

Q 病院のダウンサイジングか。

A 市長　まず200床程度の病院でバランスをとり、経営できる病院にしたい。

Q 1市1町の医療センターとの整合性は。

A 市長　医療センター計画は不確定。成東病院の経営確立がさき。

Q 成東病院は、今後も地域の中核病院か。

A 市長　独法化で営利目的の病院にすることはあり得ない。成東病院がこの地域で長年にわたって果たしてきた、皆さん方の命を守るという理念は捨てることはない。

Q 来年4月の独法化は拙速では。

A 市長　成東病院が経営改革され、医療センターができるのが一番いい。資金ショートで成東病院がダメになり、センターもダメという最悪のシナリオを避けられる。

●介護保険について

Q 平成21年度の介護保険料（基準額）は据え置きで月額3千8百円据え置きとなったが、取り過ぎて貯めた基金があるのに、なぜ値下げしなかったのか。

A 保健福祉部長　確かに約2億1千万円の基金がある。1千万円を取り崩しても20円しか下がらない。介護認定者も増えており基金を取り崩してしまうと財源が不安。

Q 不安と言うが、介護保険制度には財政安定化基金があり、保険給付費が足りなくなった場合には、貸し付けを受けられる。

不安ということではなく、担当者のメンツではないのか。予算を組んだのに、予算が足りなくなってしまったら、「おまえ、何をやっているんだ」と言われたくないからということもあるのではないか。

被保険者の立場、保険を運営している人のメンツではなくて、本当に年金生活で困っている方の立場に立って、1円でも、10円でも安くするべき。もともと被保険者のお金ですから返すのが当然では。

A 市長　今日は新しいことを教えていただいたような思いだ。確かになるほどかなと思った。

蕨議員とは特に国保のほうで、基金の水準について常に見解の相違を持ってきたが、職員のメンツでこうしているんだというのは初めて聞いた。これは十分気をつけていかなければいけないと思う。

一般質問の内容は、各議員より提出された原稿をそのまま掲載しました。

山武市議会会議録
SAMMU CITY ASSEMBLY MINUTES

山武市のホームページから、議会会議録の検索ができるようになりました。

平成１８年山武市議会第１回臨時会以降の本会議（定例会・臨時会）の会議録について、発言者・キーワードなどで検索・閲覧が可能です。

議会だより編集委員会

委員長　井野　敬一
副委員長　本山　英子
委員　篠崎　修
委員　能勢　秋吉
委員　宍倉　弘康
委員　小川　一馬
委員　川原　春夫
委員　小野崎正喜

議会だより編集委員会委員